

WY さんの手記

初めてお便り申し上げます。わたくしは、昨年第一子を左心低形成症候群（以下HLHS）で亡くした母親です。息子の場合は、出生の翌日に小児科医から心雑音を有すと診断され、その時初めて心臓が悪いことを知らされました。

病名からもお分かりの通り、息子は緊急で最寄の小児病院への搬送となり、そして、そこでHLHSと告げられました。そのあとの時間は、何の余地も与えられない程に流れたように思います。HLHSのことをろくに知り得えないまま命を懸けた手術の選択を迫られ、そして、息子は術後5日目で12日間の命を閉じました。

息子が亡くなってから分かったことや知ったことがあまりにも多すぎて、何度叩きのめされたことか計り知れません。調べる時間が無かったとは言え、息子にとっても申し訳なく、今でも自分を責めることを止められずにいます。「運が悪かったよ、ただそれだけだったのでしょうか……」。

悔しいのは、わたくしの産科主治医の、診断出来なかったことを何とも思っていない、関係ない域だと見受けられた態度でした。機械ばかりが上等で、一体何を見ていたのかと呆れてしまう思いです。ただ、HLHSですから、出生前診断が付いたところで厳しさは同じだったかも知れません。それでも、幾つもの良い結果例を聞くと、やはり大きく左右される要因の一つには違いないと思いました。

この春を過ぎ、わたくしも夫も共に第二子のことを具体的に考え始めました。そして妊娠すれば、専門医による胎児診断を受けようと思っています。そこで質問ですが、貴会では胎児診断の出来る医師の一覧表なるものを有し、それを提供することは行われているのでしょうか。また、熟知された医師を探す方法を教えて頂けたら幸いです。

文末となりましたが、貴会の今後のご発展を心から願って、そして、胎児診断が一般の産婦人科医の領域まで浸透し、一人でも多くの赤ちゃんとお母さんが救われることを心から願って已みません。